



新たな視点からジオパークを研究

profile

平成6年11月19日生まれ。趣味はスポーツをすること（剣道3段）。虻6区在住。27歳。

Spotlight

スポットライト



洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会学術専門員

佐々木 聡史さん

豊かな自然に囲まれ、多様な生命が息づく洞爺湖町。世界的に価値が認められている洞爺湖有珠山ジオパークは、主に地質学の見地から研究が進められてきました。佐々木さんの専門は古生物で、研究手法は採取した貝形虫と呼ばれる微小甲殻類の化石から地質や生命の歴史を解明すること。ジオパークでは注目されなかった新しい視点から、その成り立ちを解き明かそうと意気込んでいます。

高校時代に古生物学に魅せられ、島根大学に進学。古生物や地質を専門に学び、大学院に進んで博士課程を修了しました。その中で出会ったのが体長1ミリの以下の甲殻類、貝形虫の化石の研究です。採集した化石の分析結果と地質データなどを組み合わせることで、試料を採取した地域周辺の環境を推定できます。北海道では貝形虫の研究があまり進んでおらず、洞爺湖

有珠山ジオパークは火山活動が活発であるなどの理由で主に地質学をもとに研究が続いてきました。それだけに佐々木さんは「洞爺湖有珠山ジオパークは宝の山です。火山の研究だけではないことを知ってもらいたいと思います」と今後に胸を膨らませます。

洞爺湖町に来てからは、町民に提供してもらった海藻から貝形虫化石を見つけるなど、積極的にフィールドワークに繰り出しています。来年は、国連教育科学文化機関（ユネスコ）のジオパーク再認定審査が控えており、前回審査で指摘された課題の修正などにも取り組んでいます。

学生時代、ジオパークに関連した一般向けのフィールドワークや展示会の補助に携わったことが、洞爺湖有珠山ジオパークの学術専門員となるきっかけになりました。「地域の人に研究の成果を伝え、洞爺湖町の新たな魅力を発信したいです」と話しています。

東奔西走

町内の子どもたちのためにJAとうや湖およびとうや湖酪農振興会から町に牛乳贈答券を寄贈いただきました。私は牛乳が好きで毎日飲んでいました。子どもたちも牛乳をたくさん飲んで健康で丈夫に、そして大きく育ってほしいと思います。（M.O）

3年ぶりの開催となった洞爺湖マラソン。ハーフとなりましたが、走り抜いたランナーは一样に笑顔でした。最近は大規模イベントの開催が進みつつあります。ランナーたちが、町内のイベント再開に向けた先駆けとなってくれたらと願っています（D.Y）

